

2026 年度東京医科大学医学部医学科
(学士選抜・学校推薦型選抜)

小論文(日本語)

I. 注意事項

1. 試験開始の指示があるまで、この冊子は開いてはいけません。
2. この冊子は 1 頁あります。試験開始後、頁の落丁・乱丁および印刷不鮮明、また解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
3. 課題冊子の余白はメモとして使用してかまいません。
4. 監督者の指示に従い、解答用紙の「受験番号」・「氏名」欄に正しく記入してください。

試験時間 : 日本語 8:45 ~ 9:45

課題 : 日本語の課題 1 題

解答の仕方 : 解答用紙に記入してください。

※ 小論文(日本語)の試験終了後、解答用紙を回収し、小論文(英語)の課題冊子および解答用紙を配布します。

※ 小論文(日本語・英語)の間の 10 分間は休憩時間ではありませんので、退室することはできません。

次のページに進む →

小論文（日本語の課題）

課題文では、ある施設での高齢者介護の様子が描かれています。お婆さんが嫌だったのはどのようなことだったのか、そのことに触れながら、「秘密のパンツはうまくいった」（下線部）とはどういうことなのかを説明しなさい。（600 字以内）

お婆さんは徹底的に排泄介助^(注1)を嫌がる人である。

自分でトイレに行けないのだから、リハビリパンツ^(注2)を着用するなり、紙パッドを当てるなりする必要がある。その選択も嫌がった。よって、おしっこが出てしまうとパンツやズボンもろとも濡れてしまう。

「みんなが集まっているとき、お婆さんが目をつむって何かに集中していたんです。微妙に身震いするので、『どうしたんですか』って聞いたんですよ。そうしたら『静かにして！今、おしっこしているから！』って怒るんですよ。公衆の面前でおしっこに集中できますか？ 私だったら無理です。だって、みんなの前でお漏らしすることになるんですもん。お婆さんは恥ずかしくないんですかねえ」と職員。

排泄の介助を他者から行われるのは恥ずかしい。それはよく分かる。共感する。だからといって、お漏らしを選択するお婆さんの行為は理解できなかった。

排泄の介助を拒む。オムツの類も受けつけない。おしっこに濡れて初めて、しぶしぶ着替えの手伝いをさせてくれる。さすがにこの繰り返しは、介助するぼくたちにも、介助されるお婆さんにも負担が大きかった。

そこで、秘密のパンツをつくった。パンツの股の部分に二重底にして尿漏れパッドを仕込むようにした。お婆さんがお漏らししていることが他者に気づかれぬように配慮した。

秘密のパンツはうまくいった。あからさまにお漏らしすることは防げたのだが、最終的には人の手を借りることは避けられない。

村瀬孝生『シンクロと自由』（医学書院、2022 年）より一部改変

（注 1）排泄介助とは、自力での排泄が難しい方を、トイレへの誘導、便器や尿器の使用、おむつ交換といった行為でサポートすること。

（注 2）リハビリパンツとは、下着のように履くことができるパンツ型おむつのこと。